

平成30年2月19日(月)
国土交通省宇都宮国道事務所
宇都宮市建設部技術監理課

記者発表資料

生活道路の安全性向上のため、仮設ハンプ等の試行的設置による実証実験を行います。

みね ようとう
～峰・陽東地区(宇都宮市)におけるETC 2.0データを活用した安全対策～

国土交通省では、生活道路の安全性向上の取組みを推進しており、『生産性革命プロジェクト』の一環として「ビッグデータ(ETC 2.0データ)を活用した交通安全対策」を推進しています。

国土交通省宇都宮国道事務所と宇都宮市建設部が連携し、ETC 2.0データや現地地点検から特定された速度超過や急ブレーキ多発、抜け道として利用されている生活道路における、走行速度の低減、安全な歩行空間の確保などを目的とした実証実験(ハンプや狭さく等の試行的設置)を行います。

ETC 2.0データを活用した生活道路対策として仮設ハンプや仮設狭さくを設置する今回の実証実験は、栃木県内初めての取り組みとなります。

【実施概要】

- 施工日時：平成30年2月23日(金) 9:30～14:00
※天候等により、施工が延期になる場合があります。
- 実施場所：宇都宮市峰二丁目他(詳細は別紙のとおり)
- 実施期間：平成30年2月23日(金)～平成30年3月8日(木)
- 主な対策内容：仮設ハンプ1箇所、仮設狭さく4箇所 ほか
- 実験概要説明：実験内容について、当日9:00から峰地域コミュニティセンターにて概要説明を行います。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、栃木県政記者クラブ

お問い合わせ先

【ビッグデータを活用した潜在的な危険箇所の分析に関すること】

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 電話 028-638-2181 (代表)
副所長 井上 啓 (いのうえ あきら)
建設専門官 園部 一男 (そのべ かずお)

【仮設ハンプ及び仮設狭さくの設置、歩行空間の整備(外側線敷設等)に関すること】

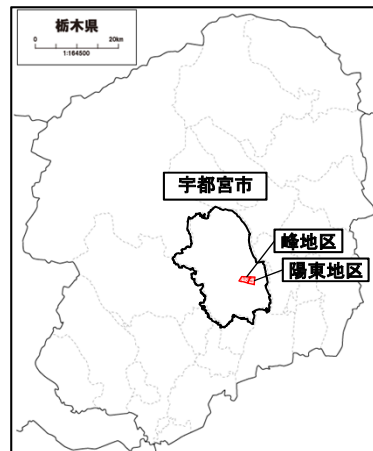
宇都宮市 建設部 電話 028-632-2783
技術監理課長 青柳 高行 (あおやぎ たかゆき)

宇都宮市峰地区・陽東地区において 生活道路安全対策の実証実験を行います

○取り組み内容

宇都宮市峰地区・陽東地区を対象に、以下の交通安全対策の実証実験を実施します。

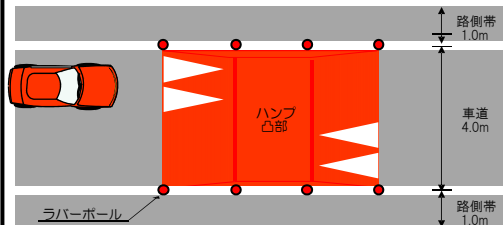
①仮設ハンプの設置(試行) 国土交通省提供(技術的支援)	【峰地区:1箇所(宇都宮市峰二丁目)】
②仮設狭さくの設置(試行)	【峰地区:1箇所】、【陽東地区:3箇所】
③歩行空間の確保	【峰地区:1路線】、【陽東地区:1路線】



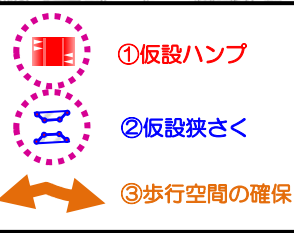
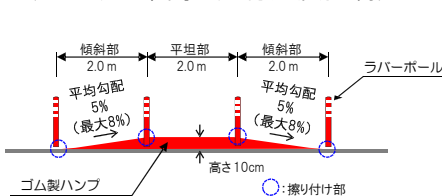
対策実施箇所



①仮設ハンプ



ゴム製の台形状の段差
(通過する車両の走行速度抑制)

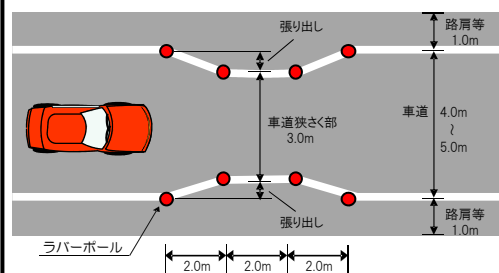


この地図は、国土地理院の地理院地図に対策実施箇所等を追記して掲載したものである。

なお、仮設ハンプ、仮設狭さくは、3月8日(木)撤去予定です。

②仮設狭さく

車道の幅員を狭めたもの
(通過する車両の走行速度抑制)



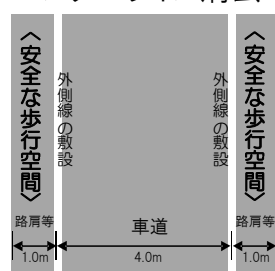
※ 狭さく箇所においては、車両同士は互いに譲り合っの通行となります。

③歩行空間の確保

白線(外側線)敷設、センターライン消去



施工後イメージ【写真①】



ビッグデータを活用した 交通安全対策



○ビッグデータを活用して、生活道路における速度超過や急ブレーキ発生等の潜在的な危険箇所を特定し、効果的な対策を実施。

【交通事故の状況】

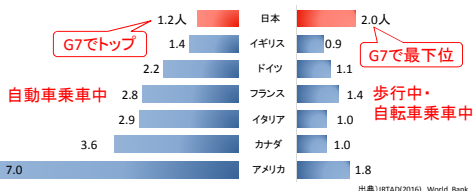
■自動車乗車中はG7で最も安全
歩行者・自転車乗車中はG7で最下位

■生活道路の事故件数は、
幹線道路と比較減少率が小さい

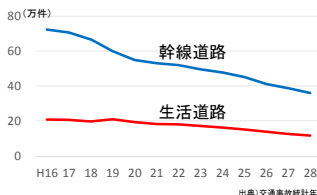
■約半数が
自宅から500m以内で発生

■衝突速度が30km/hを超えると
致死率が急激に上昇

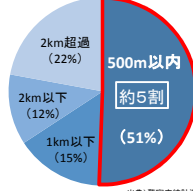
【人口10万人あたり交通事故死者数の比較】



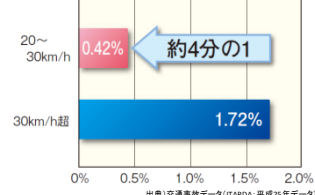
【道路種別の交通事故件数の推移】



【自宅からの距離別死者数(歩行者・自転車)】



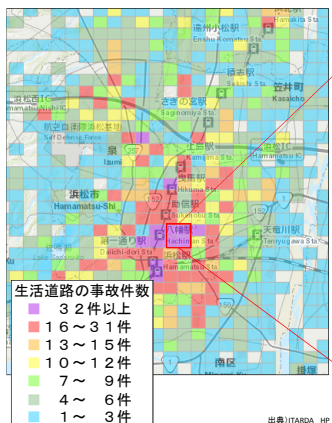
【生活道路の速度別の致死率】



平成28年度から「生活道路対策エリア」の登録・取組を実施中※
※全国で274エリア(181市町村)(平成29年8月末時点)

<対策エリアの候補の抽出>

■事故データ等を活用、
対策エリアの候補を抽出



<ビッグデータを活用した生活道路対策>

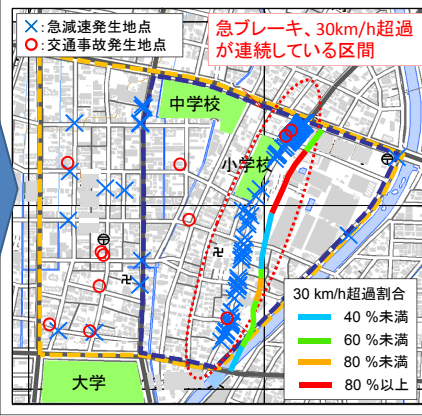
【これまで】

■事故発生箇所に対する**対症療法型**対策



【ビッグデータを活用により】

■速度超過、急ブレーキ発生、抜け道等の
潜在的な危険箇所を特定



<効果的な対策を実施>

<対策例>

[速度抑制]



[通過交通の進入抑制]



<参考> 峰地区・陽東地区における生活道路対策検討の背景

○生活道路対策について

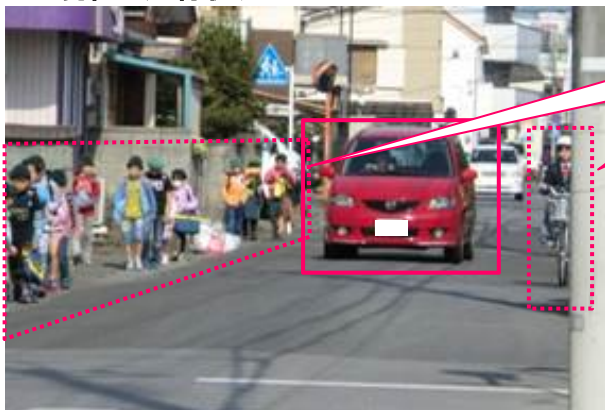
- 国土交通省では、ETC 2.0※データの活用により、速度超過・急ブレーキ多発などの危険箇所を特定し、道路の安全性を高める対策に取り組んでいます。
- 宇都宮市は、生活道路の事故が県内で最も多く発生しており、事故の状況や地域からの要望を踏まえ、峰及び陽東の2地区を「生活道路対策エリア」としました。

※ ETC 2.0では、従来のETCの機能に加え、走行車両の速度や移動経路、急減速箇所等のデータを取得できます。

○峰地区・陽東地区の現状

- 2年間(平成26年～27年)で、峰地区では8件、陽東地区では10件の死傷者が発生した交通事故がありました。
- 交通事故発生箇所以外にも、速度超過や急ブレーキ多発箇所、抜け道として利用されている道路など、児童や地域の皆さまにとって潜在的に危険な箇所が存在しています。

<現在の通行状況>

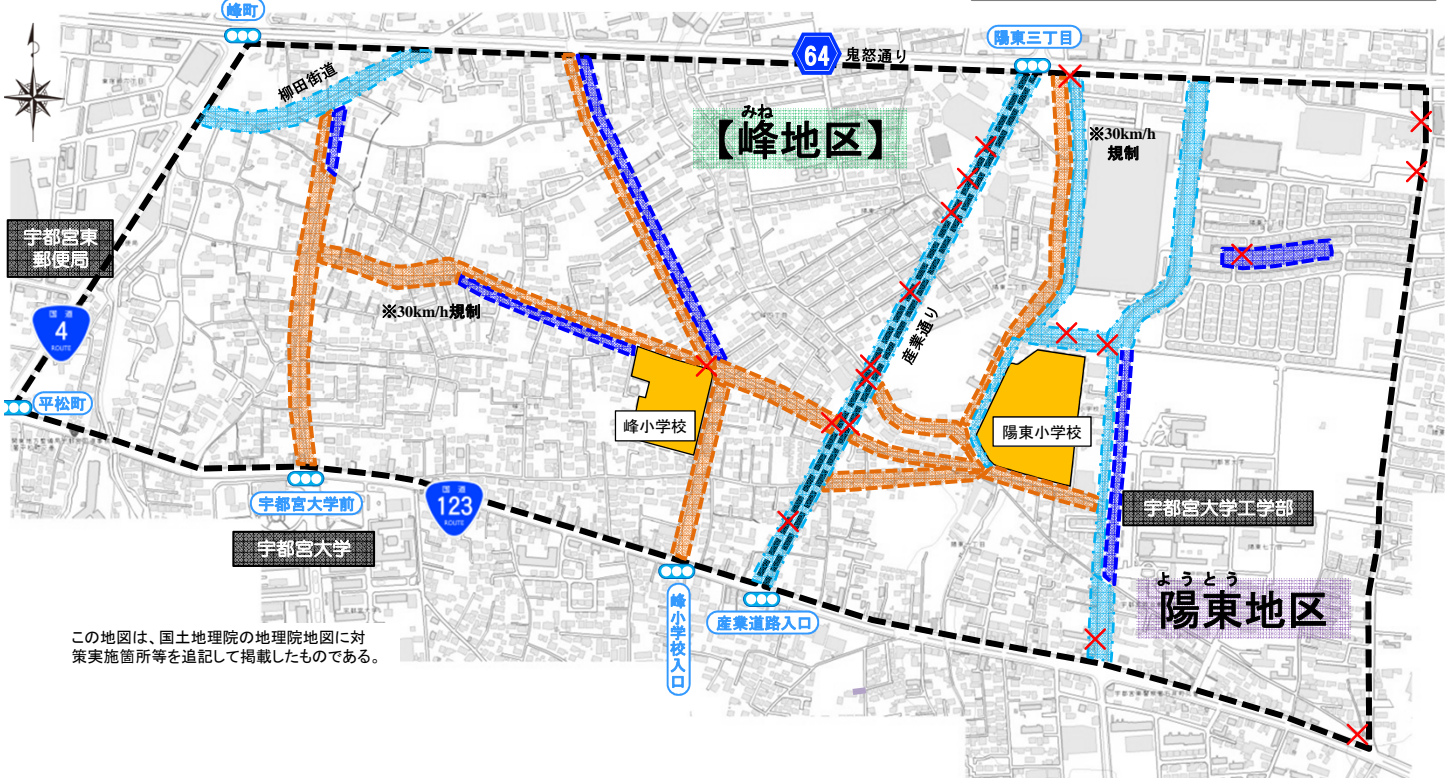


スピードを出した車両と歩行者・自転車の錯綜

対策分析検討図

ETC 2.0データより得られた課題箇所・区間

- 急ブレーキ多発箇所
- 抜け道としての利用が確認できる区間
- 走行速度が速い区間 (平均30km/h以上)
- ✕ 事故発生箇所(物損事故を除く)



この地図は、国土地理院の地理院地図に対策実施箇所等を追記して掲載したものである。

<参考> 峰地区・陽東地区における これまでの取り組みと今後の流れ

参考-2

○宇都宮市峰地区・陽東地区生活道路対策ワーキンググループについて

- 関係機関(国土交通省、宇都宮市、栃木県、栃木県警察本部)で構成されるワーキンググループにおいて、課題の整理や対策方針について検討し、地域の皆さまに説明を行い進めております。



○今後の予定

- 効果判定を行い、峰地区及び陽東地区の生活道路において効果的な恒久的安全対策の方針について検討します。
- 本実証実験で得られた知見を「ビッグデータを活用した交通安全対策」検討に活用していきます。